



スマートコミュニティにおける情報インフラ

エッジコンピューティングとIoTが切り開く新しい街の情報インフラ

なぜスマートコミュニティとエッジコンピューティング？

- クラウドよりもユーザに近いため低遅延？効率が良い？
 - 通信遅延しか稼げず計算遅延はクラウドが短い？集中型で総合効率で上回る？
 - この観点でのメリットは極めて限定的
- エッジやフォグコンピューティングはサービス提供場所の候補を増やし、その適材適所利用や、その存在を隠してサービスを行うなど新たな機能の提供場所を与えます。
 - 通信センサ(情報の中間搾取)、アドオン(情報の偽造・変造)できる禁じ手
 「ネットワーク透明性」IoT端末に何ら変更なく、途中で処理したことを感じさせない
 「完全性」クラウドなどエンドホストではないので全通信が見える
 「位置自在性」どこでもサービスを提供できる
 「透明アドオン」ネットワーク途中でステルスに非力なIoTの機能や安全性を拡張
 - 具体的なサービス例
 「情報のカプセル化」外に出る個人情報データをエッジで匿名化し情報を地域に固定
 「情報のカラーリング」匿名化情報に電子透かしをエッジに入れて安全性を向上
 「セキュリティ拡張」IoTに対してセキュリティをエッジで追加
 「透明負荷分散」クライアントに何も拡張を施さずに自動で負荷分散

